

3. 基本方向と将来都市構造

3-1 基本理念とまちの将来像

地区の現況及びまちづくりの課題を踏まえ、まちづくりの基本理念を掲げ、目指すべきまちの将来像を設定する。

(1) 基本理念

◎浜街道のフロンティア拠点を目指して

四倉地区は、いわき市の北部の中心であるばかりでなく、相双地区とも近く、首都圏から仙台やそれ以北に至る連なりを「浜街道」と捉える中で、内陸部も含めた新たな交流を生む拠点としての機能を強めることを目指す。

市南部の各地区に比べ産業の集積が遅れ、基幹産業であった漁業や鉱業も衰退しているが、いわき四倉中核工業団地の整備と企業立地を新たな飛躍の好機と捉え、新しい時代環境に見合った新しい産業の渦を沸き上がらせるフロンティアとしてのまちづくりを進める。

◎海・街・里・山を結ぶ一体のまちづくり

四倉地区では、緑深き山林から広大な太平洋までが仁井田川流域によって一体に結ばれ、その上に人々の生活や産業などの舞台としての街や里が展開する。街や里も海や山によって育まれ、海と山も密接に影響しあっている。

歴史的には3つの町村が合併した地区ではあるが、これらの関係を自覚し、その共生した姿を魅力として人が集まり、総体として発展するよう、地区内外の交流を拡大しながら、海・街・里・山が機能を補い合えるバランスのとれたまちづくりを進める。

◎みんなが住み続けたくなるまちを創造

四倉地区には、誇りある歴史文化や美しい自然など、まちをより良くするための資源が点在しており、それらをみんなの知恵と力で活用し、うるおいある環境をつくり出すとともに、子供から高齢者までだれもが安心して安全に暮らせるための方策など、住み続けたくなるまちの環境づくりを進める。

そのためには、そこに住む市民が主体的に行動し、自ら納得できるまちづくり活動を展開することが重要で、行政と協働しながら活動する地域の組織力・体制の強化、まちづくりを担う人材の育成、次世代の教育等により、みんなが夢と希望を持てるまちを目指す。

(2) まちの将来像

将来の四倉地区は、海山にわたる豊かな自然に抱かれた環境の中で、いわき四倉中核工業団地という産業拠点や地区内各所の資源を活かして様々な付加価値を生む産業を展開し、美しさと活力が調和する魅力ある姿を目指し続ける。

浜街道に沿った南北方向と、山と海を結ぶ東西方向に多くの人々が交流しあい、それが交差する場として多様なふれあいが生まれ、賑わいが増していく。そしてそれらの人が住み、働き、学び、遊ぶ場としての環境向上の努力が常に続けられ、市民相互、市民と行政が協力しあって行動することにより、笑顔と優しさが絶えないまちであることを目指す。

これらを総括し、四倉地区の将来像を次のように掲げる。

賑わいとふれあい、

笑顔と優しさが交差する

魅力あるまち「よつくら」



四倉海岸でのドッジボール大会



四倉花火大会



凧揚げ大会

3-2 基本方向

まちづくりの基本理念に沿い、まちの将来像の実現を目指して取り組む四倉地区のまちづくり方策は、次の基本方向により展開する。

■「産業の力」を育てる

いわき四倉中核工業団地の整備を活かした工業団地立地企業との関係づくりや、四倉地区内からの積極的な産業おこしなど、四倉地区からの新たな経済循環構造の形成を目指す。

また、製造業だけでなく、農業、林業、漁業、観光などの他分野においても、道の駅「よつくら港」を活用した新しい展開を検討するなど、産業の更なる発展を目指す。

■「地域の土台」を強める

地区の動脈・生命線である道路や公共交通網の整備を始め、上水道の管理、公共下水道及び生活排水処理施設の整備による衛生環境基盤の確立、排水路や河川整備、高潮対策などの防災基盤の強化、四倉を特徴づける海岸や漁業基盤の整備、生活の拠り所となる各種公共施設の改善・充実や観光の場ともなる新たな拠点づくりなど、地区の特性に応じた機能配置、土地利用誘導を図る。

■「暮らしの環境」を高める

四倉地区の美しい自然、豊かな田園、清らかな水の流れなど、身近な自然の保全に努めるとともに、水質環境の維持向上や廃棄物対策等による衛生環境の向上、防犯・交通安全の確保等のほか、安心して生活しやすい保健・医療・福祉等の環境を市民との協働で形成し「だれもが住みたい、住み続けたいまち」づくりを目指す。

■「文化と教育」を深める

四倉地区には古くからの歴史遺産が多く、その貴重な歴史遺産や伝統文化を保全継承するとともに、歴史・文化を活かした人づくり、祭り・イベント、各種交流活動の推進、さらには、学校教育だけでなく多様な生涯学習やスポーツ活動等を展開し、心豊かなまちづくりを目指す。

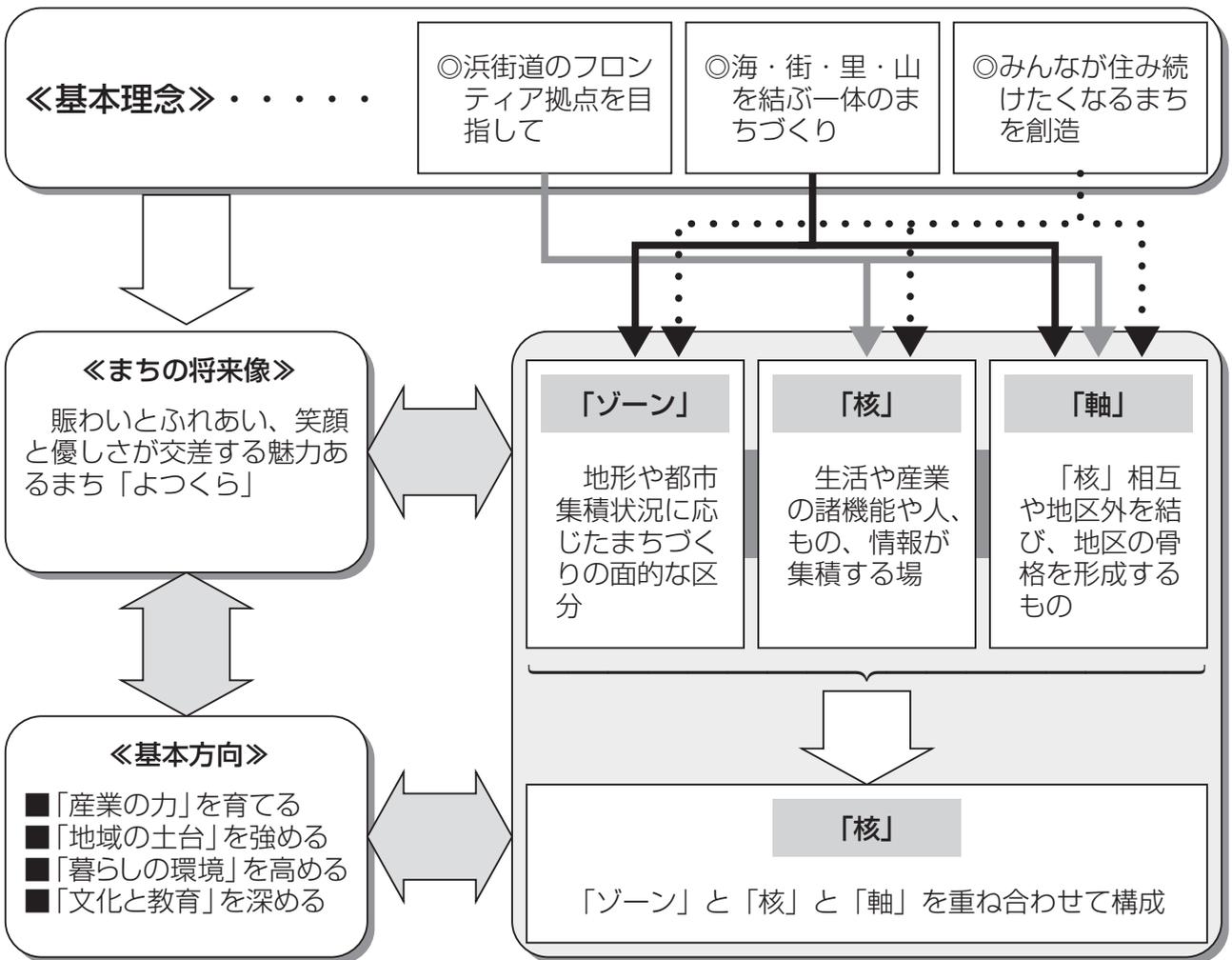
3-2 将来都市構造

四倉地区のまちの将来像を、基本方向に沿って具現化し、形成すべき都市構造を以下のよう設定する。

(1) 基本構成——「ゾーン」と「核」と「軸」

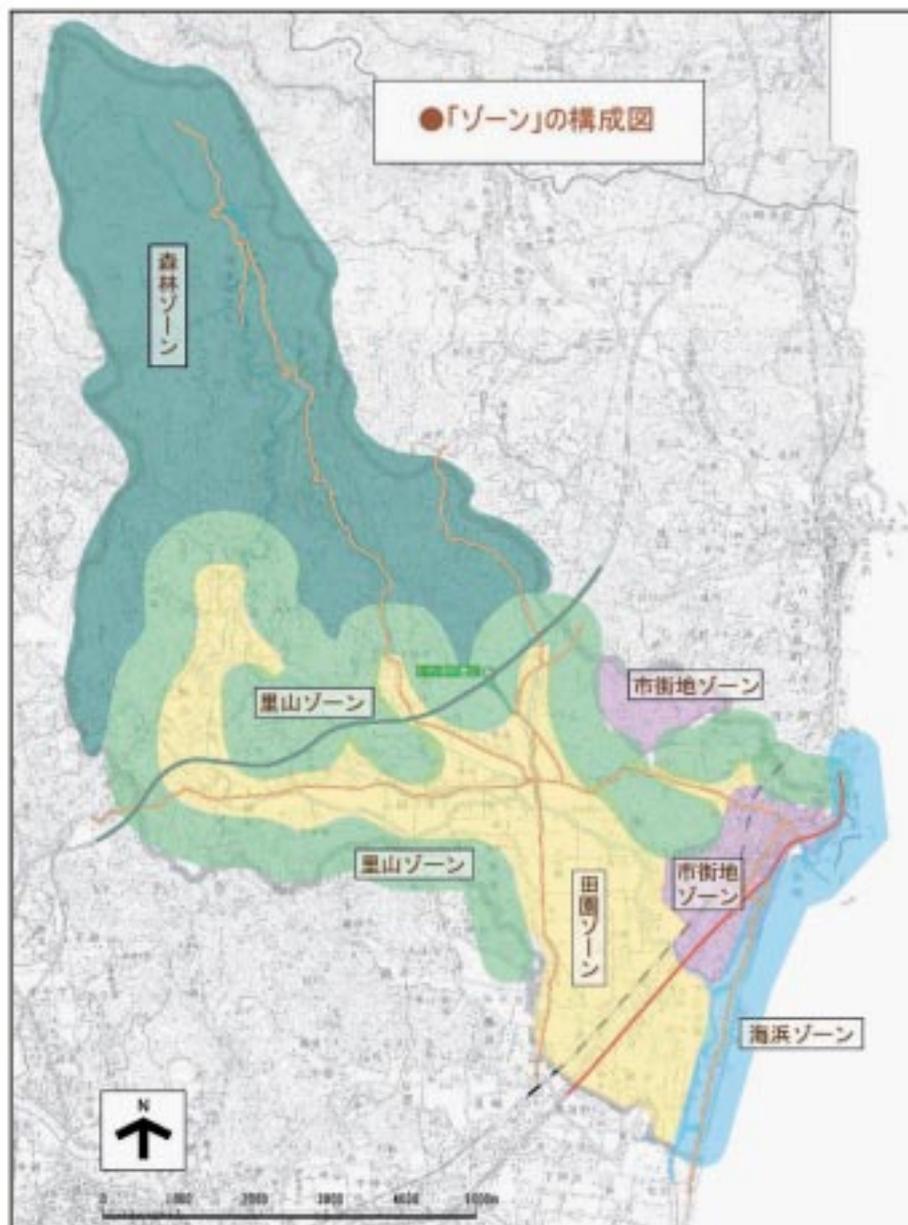
「基本理念」を具現化するため、四倉地区内を地形や土地利用の方向性区分に沿ったいくつかのゾーンに区分し、ゾーンごとの特徴を活かしたまちづくりを進めるとともに、その上で、様々な活動の拠点となる「核」を置き、また、「核」を結び人・もの・情報の流れが集まる「軸」を設定する。

この「ゾーン」と「核」と「軸」を重ね合わせることによって四倉地区が目指す将来都市構造とし、その構造全体で、「まちの将来像」及びそのための「基本方向」の実現を支えるものとする。



(2) ゾーン

ゾーンの区分は、海から山に至る四倉地区の自然の多様性を反映し、地形や都市集積の状況等の特性に見合った土地利用や都市施設整備、環境形成を図ることを目的とし、次の5つのゾーンを設定する。



○「海浜ゾーン」

(四倉漁港や四倉海水浴場を含む太平洋の海岸線に沿った帯状のエリア及び海水域)

- ・ 海の持つ大きなエネルギー、資源の豊かさを、陸の人々に伝えるゾーンであり、漁業やレクリエーションなどを通じて人が海と接する場としての機能を発揮する。
- ・ 漁港区域は、漁業の拠点であると同時に、四倉を象徴する空間として様々な交流の拠点となることを目指し、必要な機能整備、水産資源に触れられる環境形成を図る。
- ・ 広大な砂浜や磯場を含む海岸線は、自然の地形や美しい景観などを保ち、また、人々が海と触れ合う多様なレクリエーションや交流・イベントなどの場として安全・快適に利用できるための環境形成を図る。

- ・ 海岸線に沿った陸域は、緑地の保全・整備など海と一体となった環境・景観形成のほか、防災基盤の充実などに努める。

○「市街地ゾーン」

(JR四ツ倉駅から四倉漁港にかけての住宅や、商業等の集積地及びいわき四倉中核工業団地の概ね市街化区域部分)

- ・ JR四ツ倉駅から四倉漁港にかけての市街地は、安全・安心・快適に生活でき、商工業などの多様な産業が集積する場として、土地の有効利用と道路や下水道等の基盤施設の整備充実、各種公共施設の集積等による拠点性の強化を図る。
- ・ かつての浜街道の宿場町の歴史、漁港の背後地という特性を重視し、人が集まる魅力ある商業機能の育成、街並み景観の形成を図る。
- ・ いわき四倉中核工業団地は、四倉地区及びいわき市北部の産業経済力強化の新たな拠点として、企業の立地促進、それら企業と地元の交流・連携による地域経済への波及効果の浸透に努める。

○「田園ゾーン」

(仁井田川流域に沿って広がる平地やなだらかな丘陵で市街地を除く部分)

- ・ 豊かな農産物生産、食料供給のための農業及び農業集落としての利用を基本とし、農業の生産性を高める基盤整備や、特色ある地場産品の生産など付加価値を高める農業生産活動の振興を図る。
- ・ これらの環境に悪影響を及ぼす大規模な開発行為等は抑制し、豊かな景観の保全・形成に努める。
- ・ ただし、農業生産活動と調和を確保できる範囲で、新たな産業おこしや人口の定住のための集落の基盤整備、土地有効利用の手法を検討し、活力の向上につなげる。

○「里山ゾーン」

(市街地や田園ゾーンを取り囲み、身近に緑の自然環境に触れられる山林との接点部分)

- ・ 農業活動や集落の生活のために人々が共同で管理し利用してきた里山の意義を再認識し、現代社会に見合った新しい管理・利用の方法を見出しながら、防災や環境浄化の観点も含めた里山の保全整備を図る。
- ・ 身近な山の自然を活かし、レクリエーションや交流等の活動を推進する。
- ・ 多くの人々の生活の場の背景をなす里山の景観を保全し、また、再生整備を図る。

○「森林ゾーン」

(仁井田川流域の上流域の山地部分一帯)

- ・ 水源かん養や大気浄化、森林資源の供給などの役割を持ち、下流域から海洋の環境にも大きな影響力を有する森林の資源管理、環境保全のため、林業の振興をはじめとする様々な取り組みを展開する。
- ・ 森林の管理に対する住民意識の醸成を図るとともに、山の美しい環境、景観を保全する。
- ・ 八茎鉦山や千軒平、逢瀬の滝など、地域資源の有効的な活用を図る。

(3) 核

「核」は、各ゾーンの特性に見合った生活や産業にかかる各種機能や人、もの、情報が集積し、刺激しあい高めあって拠点としての役割を果たすところで、四倉地区内に次のような「核」を設定する。



○「交流核」

(四倉漁港周辺、JR四ツ倉駅周辺の2箇所)

- ・ 四倉漁港周辺は、漁港という四倉を象徴する空間を活かし、地区内外の人が集まり、交流する場として必要な機能の集積を図る。
- ・ 道の駅「よつくら港」の整備と活用により、地区の情報を内外に広く発信し、様々な人々との交流を活発に展開することで、新たな賑わいの場としての形成を図るとともに、そこに集まる人々の市街地内への誘導を促進する。
- ・ JR四ツ倉駅周辺は、駅を中心に、交流拠点としての機能を高めるとともに、駅西側の旧住友大阪セメント跡地の土地利用と合わせ、駅東西のアクセス強化など一体的な土地利用を検討する。

○「産業核」

（いわき四倉中核工業団地）

- ・ 工業団地への企業誘致活動を推進し、地域への波及効果の高い業種等の企業の立地促進を図るとともに、地元企業と立地企業の連携、交流を促進し、新たな地域内経済循環構造の形成を目指す。
- ・ 工業団地内に整備する「交流拠点施設」を、地元と立地企業の交流から新たな価値を産み出す場として有効に活用するため、その整備運営及び活用プログラムの工夫を図る。

○（「まちなか地区」）

（2つの「交流核」を含む市街地一帯を、「まちなか地区」という大きな核と捉える）

- ・ 2つの交流核とその周囲に展開する市街地機能を一体として捉え、四倉地区を代表する大きな拠点機能を果たす核として、総合的な機能向上を進める。
- ・ 市役所四倉支所をはじめとする地域の中核機能を活かし、いわき市の北部の中心としての役割をまちなか地区全体で果たすことを目指す。

○（「豊かなみのり地区」）

（田園ゾーンの中核をなす部分を、「豊かなみのり地区」という大きな核と捉える）

- ・ 基盤整備された農地や先導的農業が行われているこの地区は、いわき市における農の先導地区でもある。
- ・ 恵まれた農環境を保全・活用し、高付加価値作物の生産や更なる生産性の向上等を図る。



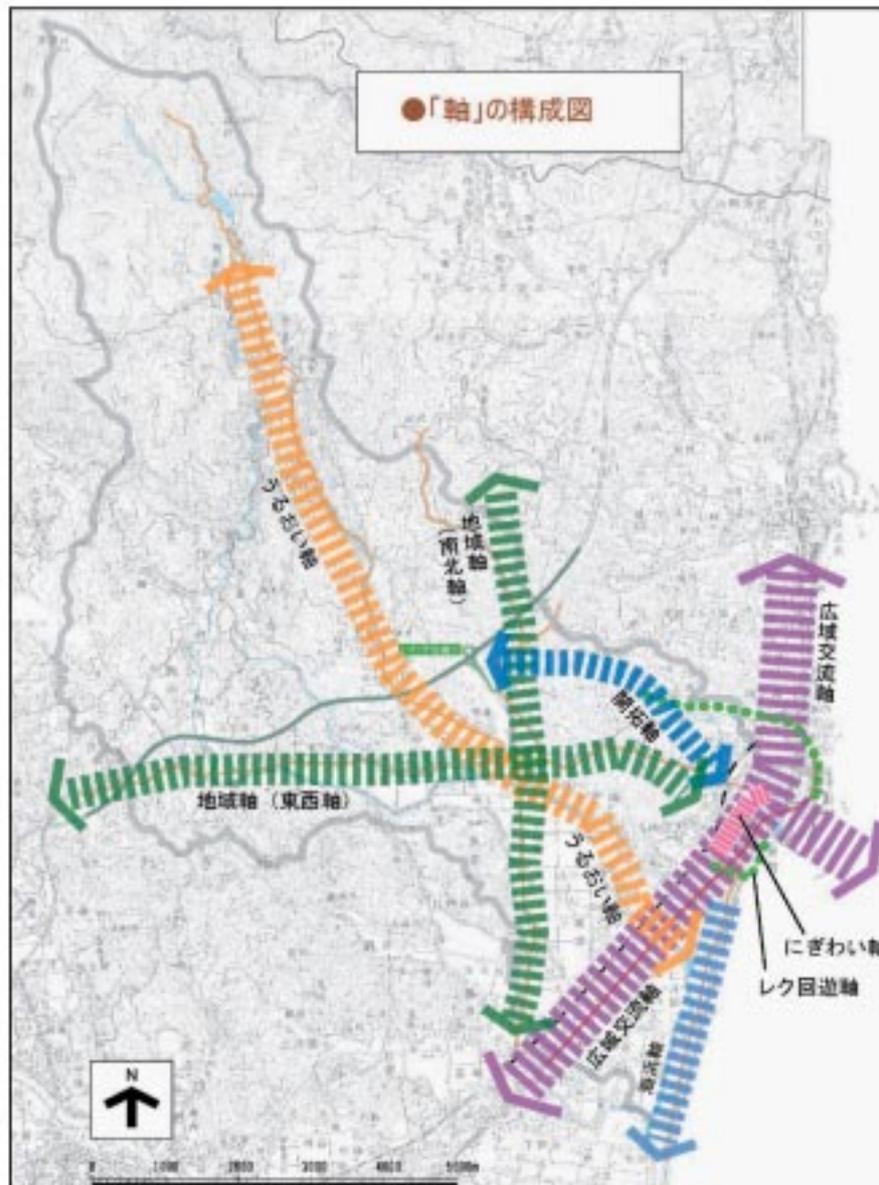
道の駅「よつくら港」完成予定図



いわき四倉中核工業団地

(4) 軸

「軸」は、四倉地区内の「核」の相互間、また地区外とを結び、「核」に集積する機能の地区全体への浸透の役割を担うと同時に、人やものや情報の流れを集めることによって、地区の骨格を形成するものである。四倉地区内に次の「軸」を設定する。



○「広域交流軸」

(一般国道6号に沿った南北方向、及び四倉漁港から海へ向かう概念も含む)

- ・ 一般国道6号の円滑な交通機能の確保のため、久之浜バイパスの整備等を促進するとともに、安全で快適な交通環境形成のため、歩道空間整備や道路景観向上等に努める。
- ・ JR常磐線を、四倉地区と地区外を結び交流ルートとして、その活用を促進するとともに、JR四ツ倉駅から地区内各方面への二次交通の確保を進める。

○「地域軸」

(南北軸——主要地方道いわき浪江線に沿って、平地区、浪江方面と結ぶ)

(東西軸——主要地方道小野四倉線に沿って、四倉まちなか地区から小川地区方面を結ぶ)

- ・ 四倉地区内の各地区、各集落を結ぶとともに、隣接する各地区方面との間の流動の主軸となり、円滑な交通機能の確保により広域交流軸機能を補完するとともに、地区の生活軸としての交通環境形成に努める。
- ・ 南北軸と東西軸が交差する部分は、主要地方道いわき浪江線の強化等により交通の円滑化を図る。

○「開拓軸」

(いわき四倉中核工業団地と四倉まちなか地区及びいわき四倉ICを結ぶ)

- ・ 工業団地の幹線道路である都市計画道路栗木作小山田線の未共用区間の整備などにより、いわき四倉ICから工業団地への迅速なアクセスを確保すると同時に、四倉地区内各方面から工業団地へのアクセスを容易にし、交流促進に役立てる。
- ・ 四倉まちなか地区の2つの交流核へのアクセスを強化し、工業団地と既成市街地が一体的に発展できる基盤を目指す。

○「うるおい軸」

(仁井田川河口から河川に沿って玉山鉱泉を経て千軒平方面に至る)

- ・ 仁井田川等の水環境、周囲の田園景観等を活かしながら、それを楽しめる連続した空間を構成し、水辺を中心としたうるおい環境の中心軸として位置付けるものである。
- ・ 計画的な河川改修の促進とともに、周辺の修景、遊歩道・サイクリングロード機能の形成などを通じ、海から山に至る四倉の自然の魅力をゆっくり体感できる安全で快適な軸とする。

○「海浜軸」

(四倉漁港から海岸線に沿って南方向)

- ・ 一般県道豊間四倉線を、海浜の魅力をたどる主軸として、交通機能のほか景観整備等に努めるなど、海浜ゾーンの形成の趣旨に沿った沿道の土地利用の誘導を図る。
- ・ 海岸線では、砂浜に沿って歩ける環境の形成を図る。

○「にぎわい軸」

(四倉まちなか地区内で2つの「交流核」を商店街等を介して結ぶ)

- ・ 既存のまちなか商店街等の道路を活用し、2つの交流核を結んでまちなか地区として、商業やサービス業等の都市的機能の沿道への集積を促進し、賑わいの中心軸となることを目指す。
- ・ 賑わいを増すために人が行き交い交流する環境づくりとして、自動車交通の誘導のあり方の検討や、安全で快適な歩行環境の形成等を進める

○「レク回遊軸」

(JR四ツ倉駅前から海水浴場、四倉漁港、いわき海浜自然の家などを経ていわき四倉工業団地方面に至る回遊ルート)

- ・ 2つの「交流核」を拠点として、四倉の魅力を歩いて楽しめる回遊ルートを、歩道や遊

遊歩道等により形成する。

- JR四ツ倉駅前から海岸との間は、シンボルロードとしての特色ある景観形成等を目指す。海岸部ではヤシの木の植樹、また、いわき海浜自然の家周辺では遊歩道の整備検討など、快適で変化に富んだ回遊ルートの形成を図る。



主要地方道小野四倉線



一般国道6号



一般県道四倉停車場線

(5) 将来都市構造図

以上の「ゾーン」、「核」、「軸」を重ね合わせ、四倉地区の将来都市構造図を設定する。

